

非侵襲的脳刺激・脳機能計測と理論言語学による言語能力の拡張技術の創出

～ 言語学×脳科学で「言葉の能力」を拡張する～



<研究概要>

急速に高齢化・国際化が進む現代では、言語リハビリテーションや外国語学習により、社会生活に必須の言語能力を向上・回復・維持するニーズが高まっています。本研究では、脳機能計測・脳刺激法を駆使して安全な脳活動の操作技術を確立し、理論言語学に基づいて脳活動と言語処理を「翻訳」できる言語モデルを作ること、人間だけが持つ言語能力を拡張する技術を創出し、全ての人が豊かな言語生活を送る未来の実現を目指します。

おおた しんり

氏名：太田 真理

所属機関：九州大学

役職：准教授

(文学、言語学およびその関連分野/言語学関連)

<略歴>

2009年東京大学教養学部卒業、2011年同大学院総合文化研究科修士課程修了、2014年同博士課程修了、博士（学術）。

2014年東京大学 特任研究員、2016年順天堂大学 助教、2016年九州大学 講師、2017年～2018年ニューヨーク大学留学（日本学術振興会海外特別研究員）。2022年より九州大学大学院人文科学研究院 准教授。

言語学と脳科学の統合

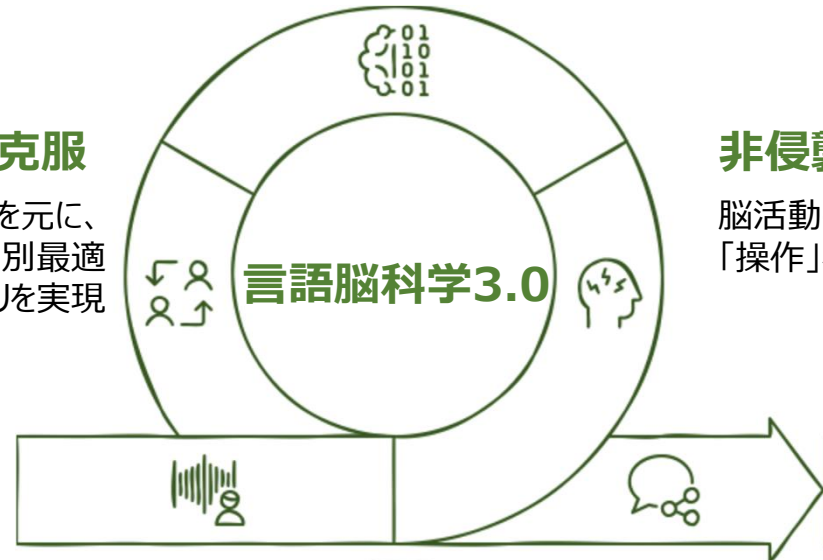
理論駆動型モデルで脳活動を言語に翻訳する

個人差の克服

健常者の脳活動を元に、患者・学習者に個別最適化した学習とリハビリを実現

非侵襲的脳刺激

脳活動の「観察」から「操作」への大転換



限定的な言語研究

脳活動の観察のみ
健常者・患者・学習者・子供を
個別に研究

全ての人にウェルビーイングを

多文化・多言語共生社会の達成
高齢社会への対応